

令和7年度地域おこし協力隊実績報告書

春澤菜



活動概要

今年度も、「地域材のPR」をミッションに、木育を軸に教育・制作・地域連携を横断する活動を展開した。

学生受入においては、事前講義から現地実装まで一貫した伴走支援を行い、大学・高校・小学校・発達支援分野と幅広く連携。地域資源を活用した実践型学習の機会を創出した。

また、iroMoriを拠点にレーザーカッターと道南スギを組み合わせた制作活動を展開し、知事視察や広域首長対応、姉妹都市交流、マルシェ出店などを通じて、町内外へ森町の魅力発信を行った。

さらに、イベント企画や商品開発を通して、地域材や文化資源を再解釈し、新たな体験価値として提示する取り組みを行った。

年間成果

教育連携実績

- ・大学 4校、6件（札幌市立大学2件、玉川大学、北海道大学2件、神戸大学）
- ・高校 1校（森高校）
- ・小学校 2校（鷺の木小・さわら小）
- ・児童発達支援・放課後等デイサービス 1団体

iroMori拠点活用

- ・視察対応 2件（知事、首長連絡会議）
- ・ワークショップ 3件
- ・制作支援 複数件

商品開発・発信

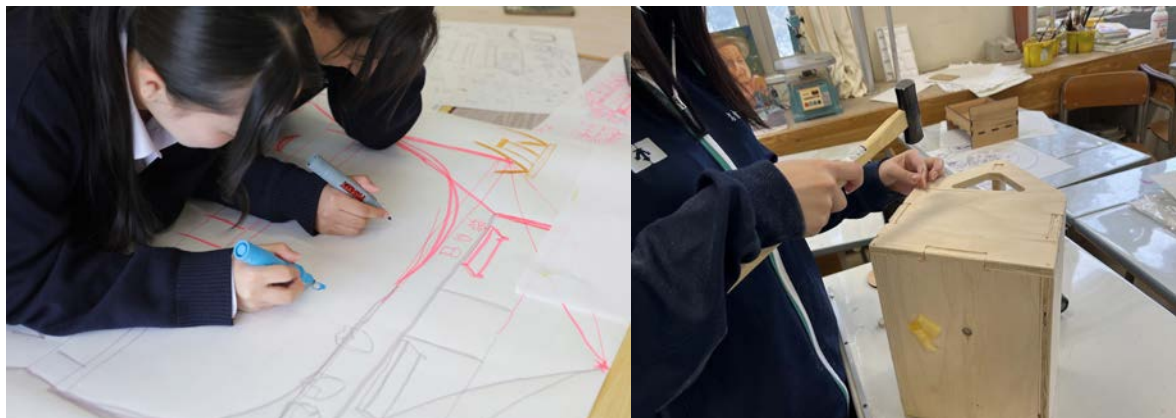
- ・縄文モチーフ商品開発
- ・東京（丸の内）、札幌での販売実施

具体的な活動

学校教育支援

森高校

住生活デザイン



実施期間：令和7年4月～令和8年3月

昨年度に引き続き、森高校「住生活デザイン」授業のサポートとして参加。以下の活動を実施した。

- ・ニチレイはぐくみの森ウッドデッキのアップデート
- ・日本生命緑の財団ノベルティ制作
- ・除間伐から製材までの体験学習
- ・自分専用家具の設計・制作
- ・木材や木工に触れる実践活動

森林資源の循環や地域材の活用を体験的に学ぶ機会づくりを支援した。

今年度は女子生徒の比率が高かったことから、「少し年上の女性デザイナー」という立場を意識し、生徒と同じ目線に立ちながら活動に参加した。制作を通じて自己表現や主体性を育む環境づくりに努めた。

森高つくるステーション



実施期間：令和7年4月～令和8年2月

森高校は昨年度よりDXハイスクールに採択され、令和7年3月にレーザーカッターが導入された。

放課後のものづくり活動として、レーザーカッターと道南スギを活用した制作活動「森高つくるステーション」を月3回程度開催。生徒が描いたイラストの彫刻や、各自のアイデアを形にするための支援を行った。

参加生徒は毎回1～3名程度と少人数ではあったが、継続的に参加する生徒もおり、完成した作品を持ち帰る姿から自己効力感の醸成が感じられた。

自身が高校時代に「先生でも親でもない第三の大人」に支えられた経験を踏まえ、安心して挑戦できる場づくりを意識して取り組んだ。

木育授業

ふれあい体験教室



実施日：令和7年6月7日

教育委員会主催の小学生向け講座「ふれあい体験教室」の初回プログラムとして、木育授業を実施。木育マイスターとして企画・運営サポートを行った。

前半は、iroMoriでの活動で発生した木の端材を活用した個人制作を実施。後半はチーム制作として、ビー玉転がしの大型版「スギ玉転がし」を制作し、協働型のものづくり体験を行った。

内容の新規性に課題を持っていた同講座において、新たなコンテンツ導入の一助となった。

植樹授業



実施日：令和7年10月2日、10月7日

台風により大規模倒木が発生した町有地において、森小学校・鷺の木小学校・さわら小学校の3校を対象に植樹授業を実施（森小学校は別件があり欠席）。

授業サポートとして、植樹方法の説明補助および作業補助を担当。事前に準備された植樹穴をチームで探し、スコップを用いて植樹を行った。

駒ヶ岳麓での体験により、地域環境への理解を深める機会となった。

地域イベント企画・運営・参加

木育フェスタ



開催日：令和7年9月23日

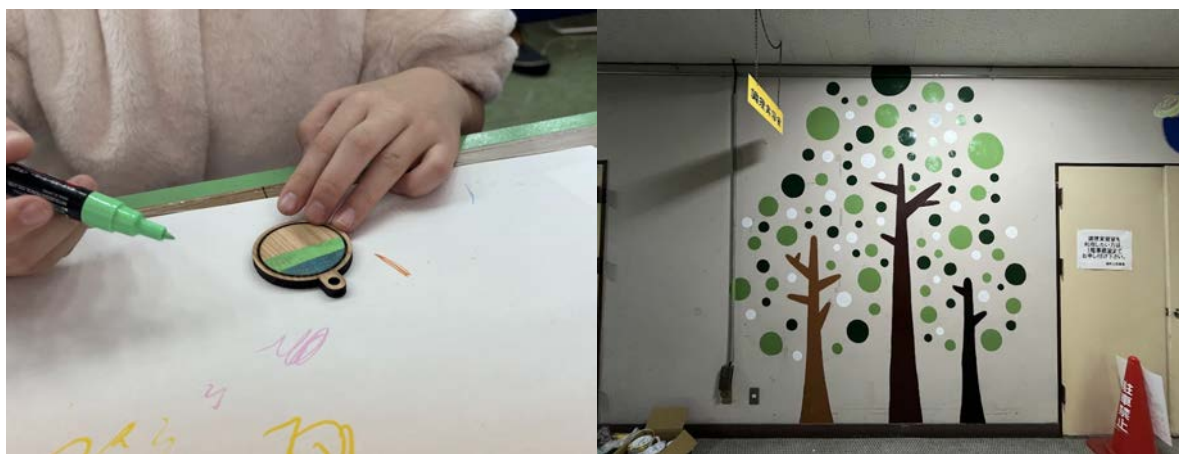
有志の木育マイスターにより企画・運営される「道南圏域木育フェスタ」に、昨年度に引き続き参画した。本イベントは毎年開催地を変えながら実施しており、今年度はさわら小学校にて開催された。

同校では、特色ある学校づくりの一環として全学年で木育授業に取り組んでおり、これまで木育マイスターとして授業支援を行ってきた経緯から、本イベントの開催につながった。当日は、従来の木育ワークショップや飲食ブースに加え、地域の太鼓保存会やアーティストによるステージ企画、参加型プログラム等の新たな取り組みにも挑戦し、木育を軸とした多世代交流の場を創出した。

準備段階では、学校側との会場調整、出店者との連絡・調整、チラシ配布等の広報活動を担当。当日は、授業の一環で森町に滞在していた武蔵野美術大学の学生と連携し、運営体制を構築。大きな事故や混乱もなく、無事終了した。

木育を通じた地域連携強化および学校教育との接続事例として実施できた。

もりっこまつり



実施日：令和8年1月25日

教育委員会主催の子ども向けイベント「もりっこまつり」に、地域おこし協力隊ブースとして出店した。

道南スギ製キーホルダーを釣り上げ、絵を描いて仕上げる体験型ブースを企画・運営。昨年度の出店経験を踏まえ、回転率を意識した運営設計を行った。

当日用意した70個以上のキーホルダーはすべて配布完了し、多くの子どもたちに地域材に触れる機会を提供した。

また、公民館が3月末で閉館することを受け、「公民館ありがとうお絵描きプロジェクト」にも参加。もりっこまつり当日に子どもたちが自由に描ける壁画のベース制作を担当した。

学生受入・教育連携

札幌市立大学(一件目)



実施期間：令和7年7月8日～26日

人数：デザイン研究科大学院生1名(地域おこしインターン)

自主制作の個展開催に向け、展示什器制作を目的としてインターンに参加。

森町の案内および地域資源の紹介を行い、調査の中で数年前まで町内小学校で使用されていた道南スギ天板の利活用に着目した。教育委員会へ相談・調整を行い、素材提供を実現した。

その後、模型制作による試作検討、shopbotによる天板・脚部の加工までの支援を行った。

札幌で開催された展示会にも足を運び、成果確認を行った。

地域資源（廃材）の新たな活用の可能性を提示する事例となった。

札幌市立大学(二件目)



実施期間：令和7年9月1日～22日

人数：デザイン学部5名（うち2名は地域おこしインターンとして活動）

学校インターン授業4名、自主制作1名を受け入れ。各自が独自の研究テーマを設定し、滞在制作を実施。それぞれ以下のアウトプットを行った。

・道南スギを用いた食器制作と、森町食材を活用した食事会を企画。駒ヶ岳木炭を活用した塗料制作にも挑戦。

・ナラ・トドマツ・スギ・カラマツの4樹種を用いた燻製の研究。滞在中に着目したイカ形土製品をモチーフとした燻製器も制作。

・森駅の魅力向上をテーマに、建築的視点から駅構内什器の提案を行った。

・旧駒ヶ岳小学校の利活用をテーマに、ヒアリング・現地調査を実施。最終提案として「ローカルラジオ局」構想を提示。

滞在中は地域事業者・関係者との調整、制作環境整備、進行管理等を行い、活動を支援。学内成果発表会にも参加し、継続的な関係構築に努めた。

地域資源を題材とした複数分野からの提案創出により、関係人口創出および新たな活用視点の発掘に寄与した。

玉川大学



人数：20名

実施期間：令和7年6月～令和7年8月

玉川大学が実施する地域連携授業のサポートを行った。課題は「森町らしさのある小学生向けイベント企画」であり、木育マイスターとして伴走支援を実施した。

初回はオンラインにて木育に関する講義を行い、森町の森林資源や地域性について共有。その後、大学を訪問し、各チームの企画に対するメンタリングの実施や、大学内の木材活用取組を見学した。実現可能性の検討や、森町の視点からの助言を行い、企画のブラッシュアップを支援した。

学生来町時には、イベント実施に向けてiroMoriを活用した制作支援を実施。前日準備として道具制作や加工をサポートし、翌日からのイベントを円滑に実施できる体制を整えた。

今年度は他にも北海道大学(2件)、神戸大学の学生が地域おこしインターンとして活動。生活サポート、スケジュール調整、アテンド、アイデア伴走支援などを行った。

iroMori拠点活動

視察

なおみちカフェ



実施日：令和7年8月26日

鈴木直道北海道知事が地域訪問事業「なおみちカフェ」にて森町を訪問した際の、iroMoriの視察対応を行った。

レーザーカッターを活用した制作体験として、知事の飼い犬をモチーフとしたピンバッジ制作を実施。加工体験から仕上げまで行っていただき、完成品を贈呈した。

後日、制作したピンバッジが知事の公式SNSに掲載され、iroMoriおよび道南スギの発信につながった。

渡島檜山首長連絡会議



実施日：令和7年10月30日

渡島・檜山管内の首長による連絡会議の一環として、iroMoriの視察対応を行った。

レーザーカッターのデモンストレーションを実施し、道南スギを用いて制作した名札を贈呈。地域材とデジタル機器を組み合わせた取り組みを紹介した。

近隣自治体への認知向上および、広域連携の可能性を提示する機会となった。

ワークショップ開催

あおぞら夏休みプログラム



実施日：令和7年8月5日

児童発達支援・放課後等デイサービスあおぞら様より依頼を受け、夏休みプログラムとしてiroMoriにてワークショップを実施した。

事前に担当の方とヒアリングを行い、参加児童の特性に配慮したプログラムを設計した。フォトスタンド制作とモルック体験、施設看板制作を組み合わせ、個別活動、身体活動、チームでの活動というあらゆるアプローチを体験できる内容とした。

静岡県森町交流プログラム

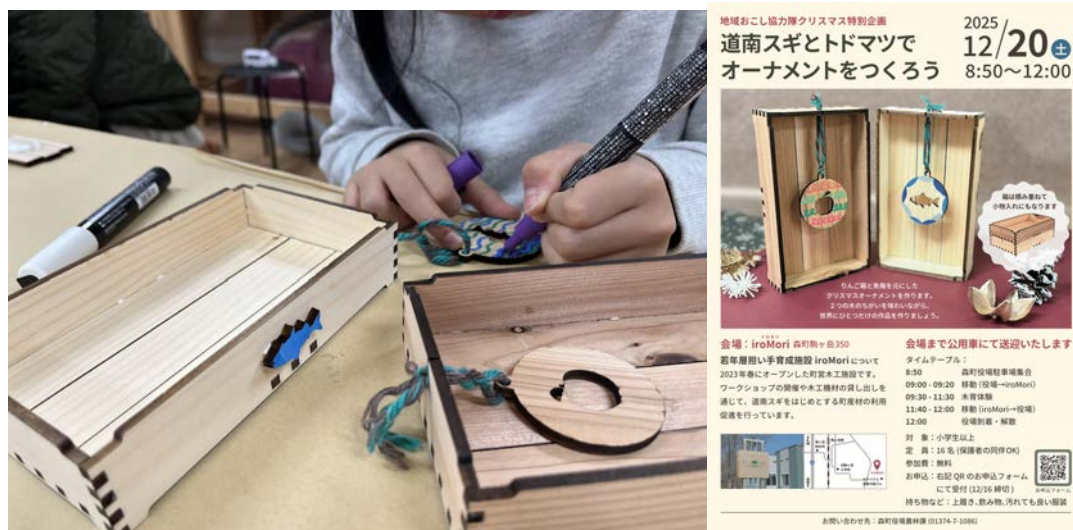


実施日：令和7年8月6日

教育委員会主催のもと、姉妹都市である静岡県森町の小中学生との交流プログラムをiroMoriにて実施。「森ンピック（もりんぴっく）」と題し、定規を使わずに木の枝を15cmに切る競技を行い、その後切った枝を活用してスプーン制作を実施した。

屋外プログラムも予定していたが、雨天により内容を調整し室内中心で実施。状況に応じた柔軟な運営を行った。姉妹都市交流を通じた木育体験および地域間交流の促進に寄与した。

木箱づくりワークショップ



実施日：令和7年12月20日

クリスマス企画として木箱とオーナメント制作のワークショップを企画・実施。

トドマツとスギの用途の違いに着目し、魚箱とりんご箱をモチーフとした木育キットを今回のために開発。告知チラシの制作、小学校への周知依頼、当日運営まで一貫して担当した。地域材の特徴理解と季節行事を組み合わせた木育プログラムを実施した。

木工制作協力

鉄道フェスタ



実施日：令和7年8月2日～3日

場所：森町社会福祉協議会

鉄道ファン有志が主催する「鉄道フェスタ」において、模型展示コーナーの一部として道南スギ製の制作物（トンネル・橋・バス停）を設置した。

依頼内容は模型制作のみであったが、追加提案として、貨物列車模型に搭載可能な道南スギ製コンテナを制作。来場者が絵を描いたコンテナを実際に走らせる参加型企画を実施した。道南スギを活用した展示を通じて、来場者に地域材への関心を持ってもらう機会を創出した。

ネイパル森



納品日：令和7年12月11日

ネイパル森様より依頼を受け、木材によるトイレサインを制作。男女を赤・青で区別しない取り組みの一環として、道南スギ材を使用し、レーザー加工にて制作した。道内外から来場者が訪れる施設であることから、地域材の認知向上を目的に「道南スギ使用」を示すマークを併せて印字した。

マルシェへの出店



森町×縄文をテーマにしたオリジナルグッズを企画・制作・販売。

森町で出土された「トリサキ土偶」「イカ形土製品」をモチーフに、地域材である道南スギやアクリルを用いたプロダクトを制作した。

販売商品

- ・イヤリング／ピアス
道南スギとアクリルを組み合わせ、縄文の意匠から着想を得たアクセサリーを制作。
- ・ピンバッジ

道南スギを使用し、トリサキ土偶・イカ形土製品をモチーフに制作。

・Tシャツ

縄文モチーフをグラフィック化した2種を展開。

出店実績

木イチマルシェ

実施日：令和7年5月16日～18日

場所：丸の内ビルディングマルキューブ（東京都千代田区）

縄文雪まつり

実施日：令和8年2月8日～9日

場所：地下歩行空間北3条交差点広場（札幌市）

森町の縄文文化資源と地域材を組み合わせた商品展開により、町外に向けた魅力発信および地域ブランドの認知向上に寄与した。

今年度感じた課題

- ・学生受入やイベント運営において、調整業務が個人の経験や関係性に依存する場面が多く、プログラムのフォーマット化やマニュアル整備が十分ではなかった。
- ・地域おこしインターンについて、受入から成果発信までの流れを体系化する余地がある。
- ・多岐にわたる活動に取り組む中で、深掘りや継続展開まで十分に時間を割けなかった側面もある。

上記課題を踏まえ、今後は活動の仕組み化と持続可能な体制づくりが重要である。

最後に-今後に向けて-

私は令和8年3月をもって地域おこし協力隊の任期を終了し、任期終了後は森町外へ拠点を移して活動する予定です。これまで培ってきたデザイン・木育・教育分野の知見を活かした活動は今後も継続していきます。

任期中は、町内外の多くの方々に支えていただき、木育やものづくり、学生受入など幅広い活動に取り組むことができました。地域おこし協力隊としての活動を通じて、森町には自然資源、文化資源、そして個性的でとても面白い方々とのつながりといった大きな魅力があることを日々実感しました。

森町を離れることは、関係が途切れることではなく、関わり方が変わることだと捉えています。町外から関係人口の一人として森町の取り組みを応援し、今後もゆるやかに関わり続けていきたいです。

これまで関わってくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。